コード No. 10501

Anti-
PP (Pancreatic Polypeptide) (23-2D3) Mouse IgG MoAb

容量 ： 50 µg

はじめに ： Pancreatic Polypeptide (PP) は、膵臓ランゲルハンス島の PP 細胞 (F 細胞 or γ細胞) によって分泌される 36 アミノ酸からなるポリペプチドであり、Peptide YY(PYY), Neuropeptide Y(NPY)とともに NPY ファミリーペプチドに分類されています。これらの NPY ファミリーの受容体には Y1, Y2, Y4, Y5, Y6 の 5 つのサブタイプが存在していますが、PP は中でも Y4 レセプターとの親和性が強く、視床下部の Y4 レセプターに作用して食欲を抑制する飽食因子として知られています。

最近、PP は糖負荷後α細胞上の Y4 レセプターに作用し、グルカゴンの分泌を抑制する血糖調節因子である可能性が報告され注目されています。PP は食事の後、迷走神経の刺激を介し分泌が惹起され、摂食調節に関与すると考えられています。

PP 細胞は PP と PYY の両方を産生することが報告されていますが、PP と PYY の両分子のアミノ酸配列は相同性が高いため PP 研究に使用する抗体は高い特異性が必要とされます。

本抗体は、ヒト、ラット、マウスの PP に特異的に反応し、膵島 PP 細胞の免疫組織染色（蛍光免疫染色 および DAB 染色)に使用することができます。

免疫抗原 ： Mouse PP 合成ペプチド

起源 ： マウス×マウス ハイブリドーマ（培養上清)
(SP2/0-Ag14 ×PPY$^{cre/cre}$ マウス細胞)

クローン名 ： 23-2D3 サブクラス ： IgG_1

精製方法 ： Protein G 精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 50 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 ： 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 ： 免疫組織染色(ホルマリン固定パラフィンおよび凍結切片) 0.2 µg/mL にて使用可能

特異性 ： ヒト、マウス、ラットの PP に特異的に反応します。NPY, PYY には交差しません。

文献 ：
1. Hara A, Nakagawa Y, Nakao K, Tamaki M, Ikemoto T, Shimada M, Matsuhisa M, Mizukami H, Maruyama N, Watada H, Fujitani Y. Development of monoclonal mouse antibodies that specifically recognize pancreatic polypeptide. Endocr J. 2019 Mar 6.

株式会社 免疫生物研究所
〒375-0005 群馬県藤岡市中 1091-1
電話：0274-22-2889 FAX：0274-23-6055
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp